

お祖師さまを巡る人々

第15回



誕降ご大士蓮日高 800年慶讃

文永八年(一二七二)十一月、お祖師さま(高祖日蓮大士)は、佐渡島(新潟県)に流罪(罪人を都から遠く離れた所や島に送る刑)されたんだ。大変な寒さと飢え(お腹が空くこと)に苦しめられているところを、佐渡の地の年老いた「阿仏房夫妻」が真剣になつてお守りくださったんだね。今回は「阿仏房」の奥さんの「千日尼」のお話だよ。

千日尼

【阿仏房】は、はじめ熱心な念仏の信者だったんだね。でも、お祖師さまの慈悲(苦を取り、樂を与えようとする心)深い説得(よく話して、わからせること)をうけ、奥さんの「千日尼」とともに御題目のご信者となったんだよ。(令和元年十月号の「お祖師さまをお訪ねする物語」・第二十二回を読んでね)

寒さ厳しい佐渡島での生活を、とても心配された「千日尼」は、毎日食事の用意をして夫の「阿仏房」と一緒に、お祖師さまのところへ運ばれたんだよ。

奥さんが「千日尼」と呼ばれるその理由はお祖師さまが佐渡島で暮らされたおよそ(だいたい)千日の間、ずっとお供養され



身延山に佐渡の国から三度も夫の阿仏房をつかわされたことは、大地よりも厚く、大海よりも深い志と、お祖師さまは千日尼を褒めたたえられた

たからといわれているんだよ。本当に大変なご奉公だっただろうね。

文永十一年(一二七四)三月、お祖師さまは、鎌倉幕府から流罪の刑を赦免され(許され)鎌倉(神奈川県)に戻られて、身延山(山梨県)に入られたんだ。

【阿仏房夫妻】は、お祖師さまと遠く離れてしまったけど、【阿仏房夫妻】のご信心はますます強くなつていったんだね。

文永十一年からの五年間、【阿仏房】は三度も身延山のお祖師さまのところへ会いに行かれています。

当時は、佐渡島から身延山まで二十日間ほどかかったんだよ。海をわたり、いくつもの山を越え、あぶない道がいっぱい。高年齢(お年寄り)の【阿仏房】はもちろんだ、夫を送り出す【千日尼】も、熱心なご信心



阿仏房夫妻像
佐渡・妙宣寺に伝わる阿仏房夫妻像
(写真右が阿仏房、左が千日尼)

と勇気がなかったらできないことだね。

【千日尼】は、身延山では手に入らない海苔やワカメなどをたくさん送っているんだ。お祖師さまのお身体のことを気遣われた(あれこれと心配された)んだね。

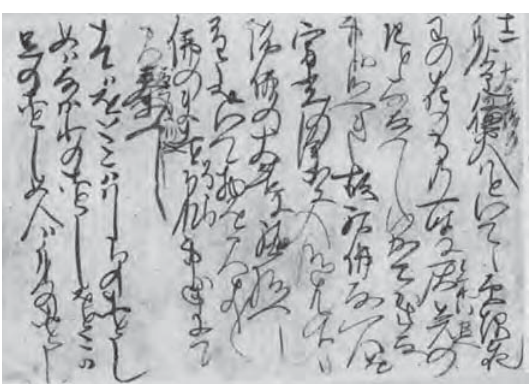
【阿仏房】は、いろんなお供養を持つてお祖師さまに会いに行かれたんだけど、お祖師さまが書かれたお手紙は、【千日尼】に出されたお手紙の方が多んだよ。それには理由があるんだね。

【千日尼】は、いつもご信心のことをお祖師さまに質問されていたんだ。毎回、お供養のほかに、ご信心のことをもっと学びたいと質問をされていたんだ。

そんな【千日尼】のために、お祖師さまはたくさんのお手紙を書かれて、ご信心のことを教えられたんだね。

とても高齢なんだけど頑張って遠い身延山まで会いに行かれた【阿仏房】。そして、もっとご信心のことを知りたいとたくさん質問をされた【千日尼】。

僕たちも、こんな「スーパードンちゃん」お婆ちゃん【阿仏房】と【千日尼】をお手本として、ご信心に励もうね。



千日尼御返事(重要文化財)
この御書は阿仏房の妻千日尼に宛てられたもの。ご真筆は佐渡・妙宣寺で所蔵されている



蓮華王山妙宣寺
阿仏房の自宅をお寺にしたものが前身で、後に城址に移転し新築後に「蓮華王山妙宣寺」と名乗った(写真左は本堂、右は庫裏)